

解剖学・口腔解剖学

- 《履修上の留意事項》1. プリント配布があるので、必ず出席すること。
 2. 授業中に重要なポイントを指示するので、必ずメモなど書き留めること。
 3. 練習問題集を配布するので、復習に役立てること。
 4. 復習はその授業日のうちに行い、練習問題集、メモを残した配布プリントと教科書を利用して理解を深めること。

《担当者名》 歯学部特任教授 / 入江 一元 歯学部助教 / 渋井 徹 歯学部助教 / 高橋 昌己

【概要】

医療人として知っておくべき人体の構造を学び、歯科・医科の臨床を理解するための基礎知識を修得する。さらに、人体解剖学見学実習を通して授業で学んだ知識を統合しつつ、人体構造の三次元的な理解を深めると共に、医の倫理と生命の尊厳について深く考える。

【学修目標】

前期の解剖学では、人体の構造を10器官系に区分し、各器官系の生命を維持するための役割とその構造を理解する。

1. 人体を構成する10器官系を列挙する。
2. それぞれの器官系を構成する器官（臓器、内臓）を列挙する。
3. それぞれの器官（臓器、内臓）の働きを説明する。

後期の口腔解剖学では、摂食咀嚼嚥下という運動のために必要な顎顔面口腔の構造を理解する。

1. 摂食咀嚼嚥下を行うために必要な口腔、咽頭、喉頭の骨、筋、神経、脈管（動脈・静脈・リンパ節）を列挙する。
2. 下顎の開口運動、閉口運動、側方運動、前方運動、後方運動に必要な筋の作用と下顎骨の運動を説明する。
3. 嚥下時における咽頭の蠕動運動、喉頭の気道閉鎖のための筋の作用と一連の運動機序を説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	解剖学について 骨格系	身体の区分・方向用語を使用する。 教科書 p.1 - p.7 骨の基本構造と連結を理解する。 骨の形状による分類し、具体例をを列挙する。 脊柱の構成と全景の概要を説明できる。 胸郭の構成を説明する。 上肢骨の構成を説明する。 下肢骨の構成を説明する。 骨盤の構成を説明する。 教科書 p.46 - p.63	高橋 昌己
2	筋系 骨格筋	骨格筋の形状と分類を説明する。 骨格筋の収縮による運動の種類を説明する。 人体の頭部・頸部・背部・胸部・腹部・上肢・下肢における骨格筋と運動を説明する。 教科書 p.64 - p.80	高橋 昌己
3	消化器系	消化器系を構成する器官を説明する。 消化管の構成と各部の特徴を説明する。 消化腺の種類、その構造と働きを説明する。 腹膜の構造と各内臓の関係を説明する。 教科書 p.84 - p.97	入江 一元
4 5	循環器系	血管の定義、循環系と心臓の構造を説明する。 教科書 p.109 - p.113、p.123 - p.126 主な動脈、静脈、リンパ管の走行とリンパ節の局在を説明する。 胎児の循環を説明する。 教科書 p.128 - p.143	渋井 徹
6	呼吸器系	肺循環、体循環を説明する。 一連の気道を説明する。 鼻腔、咽喉、喉頭、気管、肺などの構造と働きを理解する。 呼吸筋を列挙し、呼吸時の運動を説明する。	高橋 昌己

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		教科書 p.213 - p.225	
7	人体解剖学見学実習ガイダンス	解剖学, 人体解剖の歴史を知る。 人体解剖に関係する法律を知る。 解剖実習を支える献体について理解する。 献体に関するビデオの鑑賞を通して、献体と人体解剖学実習の意義を理解し、医の倫理と生命の尊厳を考える。	入江 一元
8) 9	人体解剖学見学実習	解剖体や剖出標本を通して人体の構造を説明する。 人体解剖学見学実習の感想をレポートとしてまとめ、生命の尊厳について考える。	入江 一元 渋井 徹 高橋 昌己
10	神経系	神経系の構成要素を列挙する。 中枢神経系の構成を列挙し、その主な働きを説明する。 脳への血管系を概説する。 脳神経と脊髄神経の構成とその主な働きを説明する。 自律神経の構成と働き(内臓の調節)を説明する。 教科書 p.179 - p.204	入江 一元
11	泌尿器系	腎臓の構造と尿路を説明する。 教科書 p.210 - p.216	渋井 徹
12	生殖器系	男性生殖器の構造と働きを説明する。 女性生殖器の構造と働きを説明する。 受精と着床の場を理解する。 教科書 p.259 - p.263, p.36 - p.37	入江 一元
13	内分泌系	神経系と内分泌系で維持される人体の恒常性(ホメオスタシス)を説明する。 神経系で調節される下垂体の働きを説明する。 下垂体後葉での神経分泌を説明する。 主な内分泌器官とそこから放出されるホルモンの種類と働きを説明する。 教科書 p.246 - p.258	高橋 昌己
14	感覚器	五感を説明する。 主な感覚器の構造とその働きを説明する。 教科書 p.193 - p.205	渋井 徹
15	口腔を構成する骨 1) 頭蓋骨 脳頭蓋 顔面頭蓋 頭蓋底	頭蓋を構成する骨を説明する。 脳頭蓋と顔面頭蓋を説明する。 頭蓋の前面、上面、後面と側面にみられる構造を説明する。 頭蓋底の構造を列挙し、筋・脈管・神経との関連を説明する。 教科書 p.11 ~ 21	高橋 昌己
16	口腔を構成する骨 2) 上顎骨 3) 口蓋骨 4) 下顎骨 5) 舌骨	口腔を構成する骨、咀嚼・開閉口・嚥下などに関与する骨を説明する。 教科書 p.21 ~ 26	高橋 昌己
17	頭頸部の筋 1) 表情筋 2) 咀嚼筋 3) 舌骨上筋群 4) 舌骨下筋群	頭部および頸部にみられる骨格筋の種類と働き(作用)を説明する。 咀嚼・開閉口・閉口に関与する骨格筋の種類と働き(作用)を説明する。 舌骨下筋群の種類と働き(作用)を説明する。 教科書 p.26 ~ 33	高橋 昌己
18	頭頸部の筋 5) 顎下三角・オトガイ下三角 6) 翼突下顎隙と翼突下顎縫線 顎関節 1) 顎関節の構造	組織間隙(三角)の意義と重要性を説明する。 翼突下顎縫線と翼突下顎ヒダの関係を説明する。 顎関節の構造を説明する。 下顎運動に関与する骨格筋を説明する。 教科書 p.34 ~ 37	高橋 昌己

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	2) 顎関節の機能(下顎運動)		
19) 20	頭蓋の骨実習	人体の骨格、特に頭蓋を観察し、実際の構造を学ぶ。	入江 一元 渋井 徹 高橋 昌己
21	口腔 口腔前庭と固有口腔	口腔内の構造を説明する。 口腔を被う粘膜の特徴を学ぶ。 口腔の定義(範囲)を学び、口腔前庭と固有口腔にみられる構造を説明する。 教科書 p.10~11 図 -2-2, -3, -4, -6, -9, -11 口腔前庭にみられる構造を説明する。 口唇と頬の構造を説明する。 耳下腺の分泌導管の開口部を説明する。 歯列を説明する。 教科書 p.11~14 図 -2-4, -5 固有口腔にみられる構造を説明する。 口蓋、口底と口峽の構造を説明する。 舌下腺と顎下腺の分泌導管の開口部を説明する。 舌の構造および働き(味覚など)と神経を説明する。 教科書 p.14~18 図 -2-6~-13	渋井 徹
22	咽頭、喉頭と嚥下 1) 咽頭 2) 喉頭 3) 嚥下に関与する筋群	上・中・下咽頭を説明する。 咽頭を構成する筋を説明する。 喉頭の位置を説明する。 喉頭を構成する軟骨と筋を説明する。 喉頭の構造を説明する。 嚥下に関わる筋群を列挙し、説明する。 教科書 p.105~112、図 -6-1~-7	渋井 徹
23	口腔付近に分布する脈管系 1) 動脈系	口腔にみられる動脈分布を説明する。 頭頸部を走行する動脈分布を説明する。 教科書 p.38~44	渋井 徹
24	口腔付近に分布する脈管系 2) 静脈系 3) リンパ系	口腔および頭頸部にみられ静脈とリンパ管およびリンパ節の分布を説明する。 口腔内各部位における栄養と酸素の供給経路、老廃物の回収経路および炎症のリンパ節への拡大経路を説明する。 教科書 p.44~56	渋井 徹
25	口腔付近に分布する神経 1) 神経系の成り立ち 2) 脳と脊髄	それぞれの脳神経のはたらきの概要を理解する。 教科書 p.196-198	入江 一元
26	口腔付近に分布する神経 3) 脳神経 脳神経の概要 嗅神経~三叉神経	口腔および頭頸部に分布する脳神経を説明する。 三叉神経および三叉神経節を説明する。 眼神経・上顎神経・下顎神経の分布と働きを説明する。 教科書 p.49-54	入江 一元
27	口腔付近に分布する神経 3) 脳神経 顔面神経~舌下神経 4) 自律神経 自律神経の特徴 交感神経と副交感神経 分泌腺の自律神経支配	顔面神経の分布と働きを説明する。 舌咽神経、迷走神経と舌下神経の分布と働きを説明する。 自律神経(交感神経と副交感神経)について説明する。 頭部にみられる分泌腺の分泌に関与する自律神経を説明する。 大唾液腺の分泌神経を説明する。 教科書 p.54~61	入江 一元

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 100%

人体解剖学見学実習の感想レポート（必須）

【教科書】

全国歯科衛生士教育協議会 監修 「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」 医歯薬出版 2022年

全国歯科衛生士教育協議会 監修 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 医歯薬出版 2022年

【備考】

授業の都度、プリントを配布する。

練習問題集を配布する。

【学修の準備】

各授業でプリントを配布するので、必ず出席する。

予習：60分 教科書を事前に読んで、授業内容を把握しておく。

復習：60分 練習問題集などを用いて、各授業内容を復習する。